

## 聖歌隊隊長に推されて

イグナシオ 大竹 惟司

昨年の降臨節第二主日より、関武矩隊長を引き継ぎ、聖歌隊長となりました。面映いと同時に、一ヶ月以上経た今でも、不安を感じています。

関隊長は、多忙な病院の職務をなさりながらも、聖歌隊を、永い間リードしてこられました。関隊長に、あらためて感謝申し上げますと共に、今後も名誉隊長として、指導と御助力をお願いしたいと思います。

聖歌隊は、私共聖歌隊の特務にもありますように、歌をもって主を賛美することにあります。歌を、それと同時に、常に会衆の皆さんに感動していただける歌をうたって行ける様、努力しなければいけないと思っています。

昨年のクリスマスは、例年と異なり、口語の祈禱書の晩禱式にそって、唱詠晩禱を捧げましたが、曲は武田喜久子さんの作品を採用しました。一九九四年に作曲されたもので、当然、現代曲ではありませんが、大変うたいやすい曲である。ということで採用しました。因みに、武田喜久子さんは、松戸聖パウロ教

会の信徒さんで、改訂古今聖歌集の試用版や増補版には、聖歌や式文用曲の作品が多数載せられています。

深夜ミサは、文語ではありませんが、“天使ミサ”を採用しました。

このミサ曲は、十数年以前には常に使っていました。井原司祭も熟知している、ということ。又、文語での礼拝は時代にさからう(?)ように思えますが、“天使ミサ”は、私たちのチャペルにも、末永く残しておきたいという気持ちから、これに決定しました。

唱詠晩禱式及び深夜ミサは、会衆の皆さんと共に、きちんとうたえる様、今年練習の機会をもうけたいと思っています。

礼拝を、文語から口語で捧げるようになって、だいぶ経ちました。はじめの頃は、永い間、文語での礼拝に慣れ親しんでいた私にとりまして、口語の礼拝は、しばらく、なじみませんでした。友人の中には、口語の礼拝を拒否し、チャペルに来ることすらなくなつた人もいます。

古いものを新しく変えるということには、とかく、問題が起きがちです。

今、聖歌集の改訂が行なわれ、試用版が、昨年の十一月に発行されました。その他の改

訂内容について、聖歌隊の大西君から、資料等を渡されているものの、私自身、不勉強で詳しくは理解しておりませんが、試用版に関しては、従来の古今聖歌集と比較して、記譜方法には、若干疑問符がつきます。

又、新しく採用された曲はともかく、当然のことながら、従来の古今聖歌集の中で、不採用となる曲が出て来ると思えます。

慣れ親しんだ曲とか、自分の愛唱歌がなくなるということは、大変淋しいことです。皆さんも、その点には注目していただきたい、と思います。

試用版の曲に関しては、これから、礼拝に取り入れられることが多くなると思いますが、聖歌隊でも、コミュニケーションの時にうたう聖歌の中で大いにうたいたいと思っています。

尚、週報に、曲番を載せていただくよう、話をすすめています。(二月二日現在)

聖歌隊のことを、もっとわかっていただきたいという思いを胸に、ペンを走らせました。御理解いただけただかどうか。

イースター、おめでとうございます。

† † † † † † † † † †